

(別添)

令和5年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（「学力・学習状況」検証事業）研究状況報告書

市川市立塩焼小学校

1 学校紹介

本校は「未来を拓く力の育成 ～体を鍛え、書を読み、心を耕す～」を学校教育目標に、主体性を育む教育、交流を意識した活動に重点を置いている。現在、児童数818人、学級数は29クラスである。校内には図書室が2か所と隣接している市民図書室の合計3か所があり、多くの図書を活用し知識を深めたり世界を広げたりしている。

研究では独自の「深い学びリスト」を活用しながら、国語科と算数科の2教科に取り組んでいる。

2 研究主題

「どの子も参加できる言語活動の充実～国語科での少人数学習活用～」

3 研究の概要

(1) 児童の実態と課題

校内研究では、国語科と算数科で進めている。学習指導要領が改訂されたタイミングで研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現」とし、目標を達成した児童の姿を基に「深い学びリスト」を作成し、活用している。国語科の研究では、言語活動の充実に力を入れており、学年や単元、児童の実態に合わせて様々な言語活動を行っている。

令和4年度全国学力・学習状況調査では、国語科において文章の構成について問う問題に対し正答率が低かった。自分の考えを文章化できなかつたり構成に着目せず要約のみで回答したりする児童が多かったと考えられる。これまでの様々な言語活動により、思考力・判断力・表現力は育成されているが基礎的な学力が定着していない面があることが課題である。

(2) 学力向上のための取組

ア 検証授業の実施

「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」における「課題を明確にする」と「思考の過程を振り返る」に重点を置き、検証授業を3回行った。

第1回 令和5年6月21日

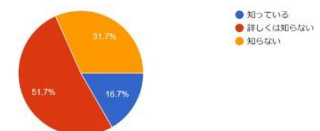
単元名：子育て支援についてパンフレットで知らせよう

展開学年：6年3組

教材名：「地域の防災について話し合おう」

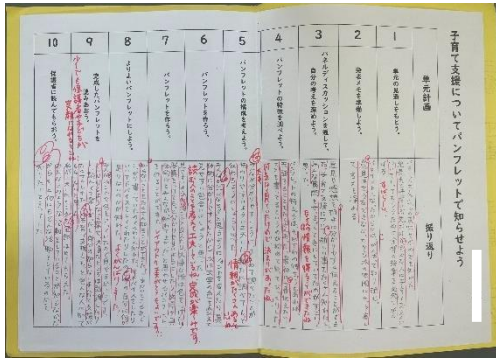
「パンフレットで知らせよう」（教育出版 6年上） (写真1 認知度調査資料)

1 市川市では、様々な「子育て支援」を行っています。知っていますが、



課題を明確にするために目的意識と相手意識をもてるように導入を工夫した。児童は社会科の学習で子育て支援について学習していた。実際に利用者となる親世代の認知度調査を10項目程度行ったところ、子育て支援の認知度は低いことがわかった。(写真1) よい支援をもっと知ってもらうために保護者に伝えたいという意識をもたせることが、課題を明確にすることに繋がった。

毎時間振り返りを書くことで、身に付いた力を自覚することができた。そして次時への課題をもつことができた。(写真2) また、書く手段としてパンフレットはWordで作成した。(写真3)



(写真2 振り返りシート)



(写真3 パンフレットのの一部)

第2回 令和5年9月27日

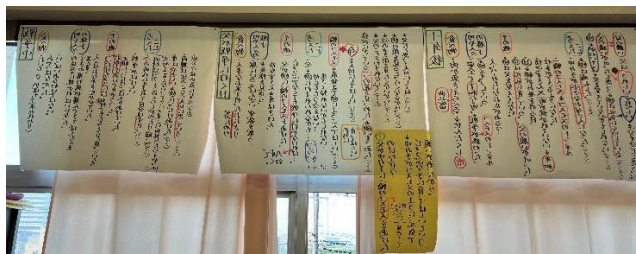
単元名：「一つの花」を読んだ感想を友だちと伝え合おう

展開学年：4年2組

教材名：「一つの花」（教育出版 4年上）

課題を明確にするために初発の感想を書かせ、学習を進める中で自分の読みに変化があるかを考えさせた。戦争教材の時代背景や心情を読み深め、現在と比較することで自分だけの感想をもつことができ、友達と伝え合うことに繋がった。(写真4)

調べや交流から気付いたことを表に書き溜め比較できるようにしたり、毎時間振り返りを書いたりすることで、思考の過程を確認することができた。(写真5)



(写真4 場面ごとの比較)



(写真5 振り返りの時間)

第3回 令和5年12月8日

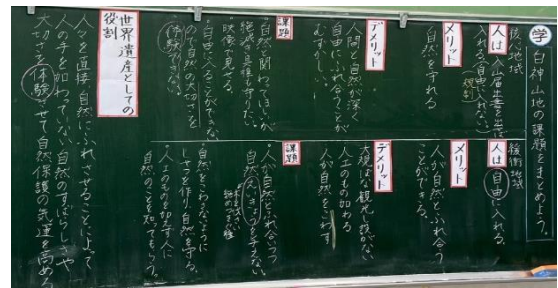
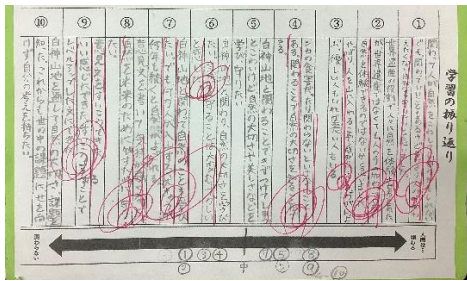
単元名：「白神山地」の自然保護を知り、意見文を書いて友だちと交流しよう

展開学年：5年3組

教材名：「世界遺産 白神山地からの提言－意見文を書こう」（教育出版 5年下）

課題を明確にするために自然教室で新潟県の自然に触れたことを想起させた。壮大な自然の豊かさに圧倒された経験から、白神山地に関心をもつことができた。また、図書資料やタブレットを活用して情報を収集した。自然保護という大きな問題に対して、これらの手立てにより、自分の考えとして意見をもつことに繋がった。

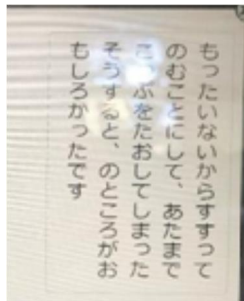
資料ごとに意見を書き溜め思考の過程を振り返ることができるようにしたことで、関連付けて意見文を書くことができた。(写真6)



(写真6 思考をまとめる活動)

イ 基礎基本の定着

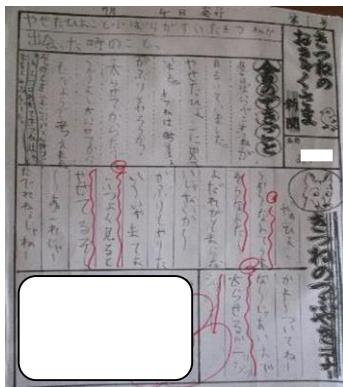
学年に応じた文章全体の構成や書き表し方を身に付けるために、様々な書く活動に取り組んだ。年間を通して取り組んだものや単元で取り組んだものなどがある。書くことへの抵抗を減らすために文字だけでなくイラストを加えたり、レイアウトを工夫したりすることができる、はがき新聞に全学年で取り組んでいる。1年生から継続して取り組むことで、書く力の向上を図る。また、書く手段としてタブレットを有効に活用することで児童の意欲にも繋がった。



(写真7 おすすめの本紹介)

- ・おすすめの本紹介 1年 (写真7)
- ・スピーチ原稿作り 2年
- ・きつね新聞 2年 (写真8)
- ・発見ノート 3年 (写真9)
- ・すごいぞ!めだかカード3年 (写真10)
- ・日記 1・2年、さざなみ
- ・ミニ作文 3・4・5・6年 (写真11)
- ・はがき新聞 全学年 (写真12)

など



(写真8 きつね新聞)



(写真9 発見ノート)



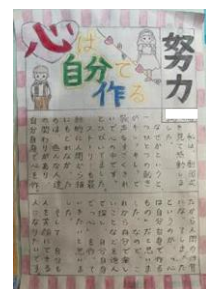
(写真11 ミニ作文)



(写真10 すごいぞ!めだかカード)



(写真12 はがき新聞)



(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用

- 4・5・6年生における少人数指導。T2での取り出し指導などで、個別指導を行った。
- T2による配慮の必要な児童への声かけや観察などにより、個別支援を行った。

4 成果

- 検証授業を参観し合ったり、検討会を重ねたりすることで、「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」のサイクルで授業を展開することの定着に繋がった。
- 年間を通し、書く活動を意識的に取り入れたことで、児童の書く量が増え、質の向上に繋がった。また、前期終了時に各学年の取り組みの情報共有を行ったことで、後期は発展した取り組みができた。次年度の書く活動の取組について見通しがもてた。
- 加配教員の活用で少人数指導が可能になり、児童の実態に合わせて指導することができた。基本的にT2として指導に当たっていたが、児童も質問しやすく主体的な活動に繋がった。

5 今後の課題

- 令和5年度全国学力・学習状況調査結果より、課題のひとつに複数の資料から情報を読み取り、自分の考えと関連付けて書く力が挙げられている。国語科に限らず他教科でもこれらの力の向上を目指したい。
- 少人数指導の活用において、習熟度別の取り出しや少人数指導の機会を増やしたい。今年度6年生において実施したところ、特に書く活動の際に個別指導を効率よく行うことができた。児童も時間内に進めることができた達成感を感じていた。複数学年に少人数指導を実施するため計画的に行うべきである。
- 各学年の書く活動を廊下に掲示するなどして、児童も教員も多くが目にする場を設定したい。日頃から書く環境にあること、様々な表現方法の存在を知ることが、思考力・判断力・表現力の向上に繋がるだろう。